

令和 7 年度

運営に関する計画
(中間評価)



大阪市立井高野小学校

令和 7 年 1 1 月

(様式 2)	
大阪市立井高野小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)	
評価基準	A: 目標を上回って達成した B: 目標どおり達成した C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった
年度目標	達成状況
【安全・安心な教育の推進】 ○ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。 ○ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 ○ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 ○ 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を昨年度より向上させる。	B
年度目標の達成に向けた取り組み内容、取り組みの進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 児童がSOSを発信しやすい環境と、教職員が児童の状況を多面的に把握し、一人一人に寄り添った支援を行える環境の実現をめざす。 ----- 指標 「学校に行くのは楽しい」子どもの割合を90%以上にする。	B
取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 児童一人一人に寄り添った不登校要因への対応を行い、不登校児童の学習機会の確保に向けた取り組みを行う。 ----- 指標 不登校児童、あるいは不登校気味な児童に対し、保護者や本人との電話やGoogle Classroomでのやりとり、家庭学習の課題のチェックなどを週1回以上行う。	B
取組内容③【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 子どもが災害や不審者などに備えて、自らを安全に確保するための行動ができるようにする。 ----- 指標 学期に1回以上防災・防犯訓練を実施し、「自分の命は自分で守ろうと思う」子どもの割合を95%以上にする。	A
取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】 児童の実態に応じた道徳や人権教育の指導計画をもとに実践する。 ----- 指標 年間指導計画をもとに道徳の指導や人権教育を実践し、「自分にはよいところがあると思う」子どもの割合を昨年度(77%)より向上させる。	B
取組内容⑤【基本的な方向2 豊かな心の育成】 企業や団体等の協力による職場見学や出前授業などの体験学習を計画・実施する。 ----- 指標 「社会見学やゲストティーチャーによる授業などの体験学習に進んで取り組む」子どもの割合を90%以上にする。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
① 心の天気や月一度のスクリーニング会議等で児童の状況を教員が共有し、支援することができている。 ② 保護者との連絡を取り連携をとっている。また、タブレットを活用して児童ともつながるようにしている。 ③ 計画的に防災、防犯訓練を実施し、命の大切さについての意識は高まっている。 ④ 年間指導計画に沿って、道徳の学習や人権教育を実践して、友達のいいところ見つけに機会等を設けているが、自分のよさを素直に受け入れることができない面も見られる。 ⑤ 社会見学やゲストティーチャーを招くことはできているが、児童の満足度は低い。	
後期への改善点	
① 今後も情報を共有し、継続して取り組んでいく。 ② ICT機器を活用し、学習の保証にも取り組む必要がある。 ③ 教員も一丸となり、命の大切さについて継続して指導していく。 ④ 他と比べてではなく、自分の中でできたと達成感が味わえるような取り組みを考えていく。また、引き続き児童の「できた」を見つけ声をかけ、広めていくようにする。 ⑤ 生活・総合的な学習を中心に体験学習を取り入れてはいるが、児童たち自身が意欲的に取り組めるように計画的に学習を進め、やりっぱなしにならないようにする。	

大阪市立井高野小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

	評価基準	A: 目標を上回って達成した C: 取り組んだが目標を達成できなかった	B: 目標どおり達成した D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった
--	------	--	---

年度目標	達成状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】 全市共通目標(小学校) ○ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を昨年度より向上させる。 ○ 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.05ポイント向上させる。 ○ 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を昨年度より向上させる。 ○ 小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を昨年度より向上させる。 ○ 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を昨年度より向上させる。	B

年度目標の達成に向けた取り組み内容、取り組みの進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上 】 主体的・対話的な学びを実現し、個別最適化の学習や協同的な学習の効果的な活用を考え、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の育成を図る。 ----- 指標 「学級の友達との話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」子どもの割合を80%以上にする。	C
取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上 】 外国語の言語活動を通して、コミュニケーション能力の育成を図る。 ----- 指標 外国語活動を通して、「外国語の簡単な言葉を用いて、仲間と伝え合うことができる」と答える子どもの割合を80%以上にする。	B
取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成 】 校舎建設に伴う運動場の使用の制限があるため、体育科の学習の場を講堂中心に変更する。また、休み時間の運動量の確保として運動週間を学期に1回設定する。 ----- 指標 「進んで体を動かす」子どもの割合を80%以上にする。	B
取組内容④【基本的な方向5 健やかな体の育成 】 手洗い・うがいの大切さを理解し、健康な生活習慣の定着を図る。 ----- 指標 保健委員会を中心とした活動を行い、「丁寧な手洗いをする」子どもの割合を85%以上にする。	B
取組内容⑤【基本的な方向5 健やかな体の育成 】 食事の大切さを知る。 ----- 指標 食に関する指導の全体計画に沿って、栄養指導や家庭への啓発などを行い、「自分の健康を考えて、バランスよく食べる」子どもの割合を85%以上にする。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
①話し合い活動の機会を多く設定し進めており、考えを広めることができているように感じるが達成状況が高まっていない。 ②C－NETの授業を通して外国語活動に親しむことができている。 ③運動週間を通して外で体を動かす児童が増えた。 ④手洗いの啓発により意識は高まっているが、うがいまでできている児童は少ない。 ⑤栄養指導や各教室での給食指導により、食について意識は高まっている。

後期への改善点
①話し合いの深まりについて児童と共有する。 低学年(自分の意見を伝えることができる)中学年(自分の意見と友達の意見を比べることができる)高学年(自分の意見と友達の意見を比べ整理することができる)のようなルーブリックを設定する。 ②外国語活動において事前に交流する内容を確認してからコミュニケーションを図るようにする。 ③2学期、3学期と運動週間を設け引き続き外遊びを促すようにする。 ④かぜよばういーくを通して啓発を続けていく。 ⑤栄養指導、給食指導を行うとともに、家庭への啓発も行っていく。

大阪市立井高野小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A: 目標を上回って達成した C: 取り組んだが目標を達成できなかった	B: 目標どおり達成した D: ほとんど取り組みず目標も達成できなかった
------	--	---

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 ○ 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にす る。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕 ○ 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員 の割合を昨年度(92%)より向上させる。	B

年度目標の達成に向けた取り組み内容、取り組みの進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】 1人1台端末の環境を生かし、日常的に子どもたちがICTを主体的に活用し、情報活用能力を高められるよ うにする。 ----- 指標 学期に1回年度目標の進捗状況を教職員全体で確かめ、年2回以上ICT研修を行う。	B
取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 教員の長時間勤務の解消を通じ、教員が健康に生き生きと働き、子どもたち一人一人に向き合う時間を 確保できる環境の実現を目指す。 ----- 指標 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合 を昨年度(92%)より向上させる。	B
取組内容③【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 大学等と連携・協働した研修を行い、教員の指導力の向上を図る。 ----- 指標 大学等の専門機関と連携・協働した研修を年3回以上実施する。	B
取組内容④【基本的な方向8 生涯学習の支援】 子どもの読書活動を推進し、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、 人生をより深く生きる力を身につけられるようにする。 ----- 指標 休み時間の図書館開放を毎日1回以上行い、「本を読むのが好き」と答える児童の割合を昨年度(78%) より向上させる。	B
取組内容⑤【基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】 地域社会で子どもの健全な成長発達を促す取り組みを行う。 ----- 指標 「学校は、保護者やはぐくみネット等の地域の団体と連携・協働した活動を行っている。(学校の美化・登 下校の見守り・学習支援・放課後支援(いきいき)・学校行事の運営等)」と答える保護者の割合を昨年度 (84%)より向上させる。	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
① 夏季休業中に1回実施し、研修内容を2学期からの授業実践で積極的に取り入れることができています。 ② 始業式後ろ倒しや終業式の前倒し、夏季休業明けの短縮授業等により、昨年度よりも勤務時間の改善が図られて いる。 ③ 夏季休業中に研修会を実施し、今年度研究教科の総合的な学習の時間に関する研鑽を積むことができた。 ④ 図書館開放を計画通り実施するだけでなく、低学年の図書の時間を図書館司書の来校日に設定するなど、本に親 しみやすい環境づくりを行っている。 ⑤ 年度当初の計画通り、概ね計画通りに実施できている。

後期への改善点
① 3学期に2回目を実施し、ICTの活用をさらに進めていく。 ② 学校での勤務時間の削減が図られている一方で、持ち帰り業務等で対応している側面がある。全体的な業務負担 軽減に取り組む必要がある。 ③ 引き続き、計画的に実施していく。 ④ 外部機関の読書推進事業なども活用し、読書に親しめる環境の充実を図っていく。 ⑤ ホームページ等を活用し、地域と連携した活動についても、引き続き幅広く知らせていくようにする。